

農委 よねざわ



▲我妻協祐さん（万世町梓山）

地域を担う農業者

万世町梓山で就農9年目の我妻協祐さん(32)をご紹介します。

果樹農家の3代目の協祐さんは、東京農業大学卒業後就農9年目、ご両親と3人でブドウ・さくらんぼの栽培をされています。

昨年はブドウ数種類を組み合わせ、購入しやすい小さなパックで道の駅米沢に出荷しました。

今後は、新しい作物の栽培とその作物の加工など6次産業化を進めたいとお話いただきました。

【農業委員 樋渡 由美】

主な記事

■ 地域を担う農業者	1
■ 新年のご挨拶	2
■ 農地パトロール	3
■ 山形県農業委員会大会	3
■ 東北・北海道活性化フォーラム	3
■ 合同ブロック協議会管内視察研修	4
■ 農業振興地域農用地の農地転用について	4
■ 農村暮らし体験受入事業のご紹介	5
■ 農と食の元気っ子講座	6
■ 雪若丸本格デビュー	7
■ 地域かわら版	7
■ 米沢の花卉	8

新年のご挨拶



農業委員会会長 伊藤 精司



謹んで新春のお慶びを申し上げます。
 昨年は、西日本での豪雨や度重なる台風の上陸と気象災害の多い年でした。
 本市においても、干ばつ等の被害により、稲作や果樹に大きな被害がありました。

また昨年より、国による生産数量目標の配分や、米の直接支払交付金が廃止されるなど、米作を取り巻く環境は大きく変化しました。それに替わって、県や市の再生協議会が生産の目安を示しての作付けとなりましたが、全国的に作況が下がったこともあり、需給バランスがとれ米価が上昇しました。

農政においては、米国抜きの中環太平洋連携協定(TPP)の発効そして欧州連合(EU)との経済連携協定(EPA)の協議開始、そして米国との物品貿易協定(TAG)交渉が始まり、ますます厳しい農業の状況となるので、国内対策を強化するように要望していかなければなりません。

また、農地中間管理事業については、五年目の見直しが行われ、今まで以上に地域での話し合い「人・農地プラン」が重要視されるようになり、農業委員会も必ず関わることとなりました。

農地法の改正もあり、園芸ハウスのコンクリート張りに関する監視や、農地バンクを通じて相続未登記農地を担い手に集約する制度など、委員会の業務も増えますが、今年も農業委員・農地利用最適化推進委員の連携を強化し、「農地利用の最適化」に向け活動していきます。

農家の皆様、そして関係諸機関の御指導・御支援を衷心よりお願い申し上げます。
 げ新年のご挨拶いたします。

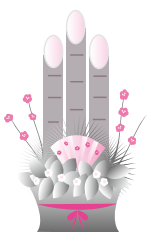
謹んで新春のお慶びを
 申し上げます

本年もよろしく願いいたします

農業委員会委員一同

農地利用最適化
 推進委員一同

会長	伊藤 精司	委員	相田市三郎
会長職務代理者	小関 善隆	委員	石川 正義
委員	江口 益美	委員	伊藤 俊浩
委員	遠藤 伊一	委員	桐澤林右衛門
委員	樋渡 由美	委員	黒田義一郎
委員	二宮 啓一	委員	後藤 仁
委員	高橋 信夫	委員	寒河江一紀
委員	佐久間英之	委員	佐藤 利夫
委員	上村 貞義	委員	佐藤 俊英
委員	古畑 功一	委員	新藤 広一
委員	高橋 秀治	委員	鈴木 勘助
委員	菅野英一郎	委員	角屋 耕吉
委員	我彦 正福	委員	竹田 修二
委員	高橋 祐弘	委員	本田 隆則
委員	大橋 久芳	委員	山口 正行
委員	山王堂民榮	委員	吉田 健二
委員	大野澤 進		
委員	鈴木 晃子		
委員	田代 昇一		



農地パトロール

農業委員会では8月下旬と10月下旬の2回、市内全域で農地パトロールを行いました。農業委員と農地利用最適化推進委員、事務局とでチームを作り調査にあたりました。

8月は主に遊休農地が対象で、10月は農地の権利移動等が申請どおりに行われているかの調査です。

中山間地の遊休化した農地は転作との関わりもあり難しい問題です。後継者の不足や、担い手の高齢化は以前から言われていますが、なかなか有効打が無いのが現状です。折から有害鳥獣の被害も多くなり、農家だけでなく地域の問題でもあると思います。

パトロールの結果は農業委員会の中で共有化され、なかでも遊休農地対策委員会が中心となり現状の把握とともに対策や解消に向けて取り組んでいます。【農業委員 上村 貞義】



山形県農業委員会大会

平成30年度山形県農業委員会大会が、11月16日、南陽市のシエルターナンようホールで開催され、県内35の農業委員会から、農業委員と農地利用最適化推進委員800名の参加がありました。米沢市からは農業委員17名、農地利用最適化推進委員9名、事務局2名が参加しました。開会行事では、農業委員会憲



章唱和、主催者挨拶に続き、1個人と1農業委員会が農林水産大臣表彰、5個人が農業会議会長表彰を受賞されました。

農業委員会大会では、議案3件が上程され、満場の拍手にて可決されました。2件は申し合わせで

の実現となりますが、「農地利用の最適化の取り組みを強化するための政策提案」（村山地区）は国会議員へ要請されます。

また、金山町の女性農業委員からは、「県内の農業委員会の中には、女性農業委員が少ない市町村もあるため、改選時には1名でも多くの女性農業委員を選出してほしい」旨の要望もありました。

決意表明、ガンバロウ三唱の後、次期開催地である村山地区の代表挨拶で閉会しました。【農業委員 田代 昇一】

東北・北海道活性化フォーラム

平成30年度東北・北海道活性化フォーラムが8月24日、北海道札幌市の札幌コンベンションセンターで開催され、米沢市農業委員会からは伊藤会長と2名で参加しました。



北海道農業会議会長の多田正光氏の挨拶で始まり、全国農業会議所事務局長の伊藤嘉朗氏が情勢報告を行い、その後、北海道大学大学院農学研究院副研究院長の野口伸氏による演題「スマート農業を活用した農地の有効利用について」の基調講演がありました。

事例発表として、「農地集積・集約化の取り組みについて」岩手県岩手町農業委員会、「被災地農業復活までの道のり」宮城県仙台市農業委員会、「大規模な農地集積による地域農業を次世代へつなぐ挑戦」北海道きたみらい農業協同組合からそれぞれ発表がありました。

最後に、フォーラムアピールを決議し食料・農業・農村自立の理想を胸に抱きながら、若い人材が希望を持って農業に邁進できる環境づくりのため、決意を新たに行動することを誓い宣言しました。

【会長職務代理者 小関 善隆】



9月、農業委員・

農地利用最適化推進委員会合同で上郷地区の(株)ビッグフィールド(県内で牛乳の生産量が一番)にお伺いし、代表取締役の太田源一さんに経営の特徴を説明していただくとともに、団地化している飼料作物のデントコーン畑を視察しました。

現在の経営規模は1200頭前後ですが、最終目標は搾乳牛1800頭、乾乳牛、育成牛を含めて3000頭となるよう頑張っておられます。

太田さんは、美しくなければ酪農場ではないとの経営信念の基に、臭い対策には一番気を配り環境美化に努力しているようです。また、置賜地区の遊休農地、耕作放棄地の積極的な解消に参加し、地域農業の振興に寄与できるようにと抱負をいただきました。【農業委員 遠藤 伊一】



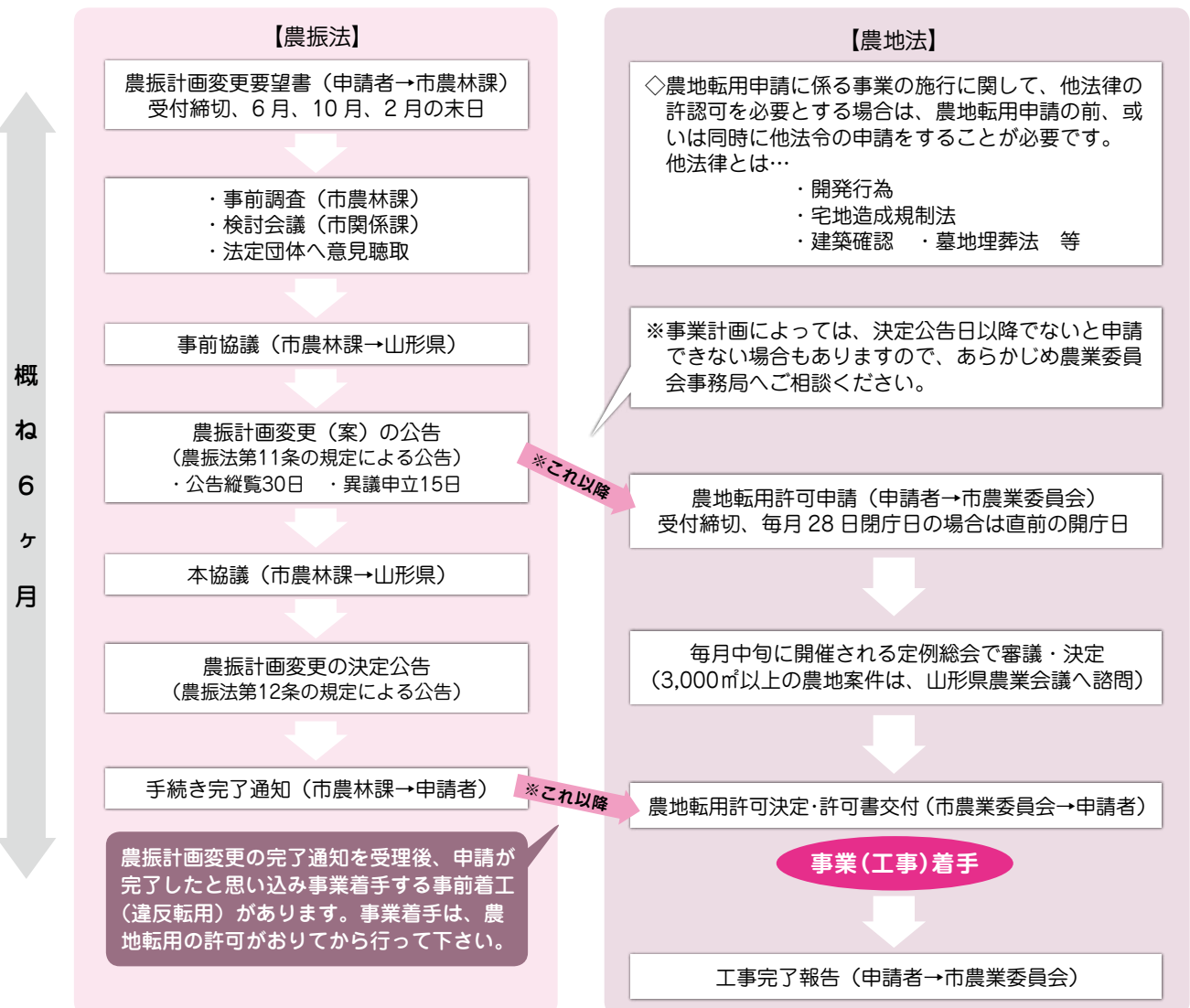
農業委員会からの
お願い

農業振興地域農用地の農地転用について

農用地区域内の農地転用については、農用地利用計画において指定された用途（農業用施設用地等）に供する場合以外認められません。なお、農用地利用計画の変更（農用地区域からの当該農地の除外）が必要と認められる場合は、農用地利用計画の変更（農振除外）をした上で、農地法による転用許可を得る必要があります。

下記の手続きの流れを御確認いただき、不明な点は農業委員会事務局にお問い合わせください。

農業振興地域農用地の農地転用申請手続きの流れ ～農振法と農地法の関係～



農村暮らし体験（教育旅行）受入事業のご紹介

米沢だからこそできる 笑顔と感涙の 農村暮らし交流体験



農村暮らし交流体験（農村民泊体験）は都市部の学校を中心に修学旅行や野外活動として、全国の農山漁村地域で盛んに受入が行われており、本市では平成25年度から受入をスタートしました。農村での暮らし体験を通じて、子どもたちの成長につなげるきっかけ作りや地域の活性化を目的に、様々な農村資源を活用して都市部中学生、海外高校生、大学生の受入を行っています。

提供する体験は、“地域の資源を活かした暮らしそのもの”。各家庭に3～5人の子どもたちが民泊しながら、農作業や自然散策、郷土料理作りなど、その家庭が出来る普段の暮らしを子どもたちと一緒にを行います。

その中で大切にしていることは、子どもたちと受入家庭の皆さんとの“交流”です。受入家庭と子どもたちは初対面ですので、子どもたちは修学旅行の楽しみだけでなく緊張や不安があるかと思えますし、受入家庭もどんな子どもたちが来るのか少し不安な気持ちもあるかもしれません。しかし、対面式が終わって各家庭に移動し、受入家庭の皆さんから畑仕事や料理などを教えてもらいながら過ごしていく中で、だんだんと緊張がほぐれ、翌日のお別れ式では涙と笑顔の子どもたちがいます。わずか1泊2日の交流です

が、初めて会う自分達に優しく楽しく接してくれる受入家庭の方々のあたたかさを感じ、子どもたちにとって心に残る思い出となると同時に、この農村民泊体験は「楽しかった」だけではない、“何か”（例えば、自然、食、自分の家族、自分の地域との違い）を考える生きた学習になります。

本市でこの体験事業に参加された家庭は、関地区、南原地区、小野川・赤芝地区などの方々延べ28軒。今までに約1,000人の生徒・学生が農村暮らし体験を経験しました。

本市としても教育旅行の受入をととして米沢ファンを増やし、またぜひ米沢を訪れるきっかけづくりを今後も継続して行っていきたいと考えております。「私にできるかしら?」、「サポート体制はどうなっているの?」、「受入事業に参加してみたい!」など、興味のある方は、下記担当までご連絡をお願いします。



問合先 産業部農林課農政担当 中川、藁科 電話 22-5111（内線5003）

新「農と食の元気っ子講座」よろしく願いします!!



農業体験を通して農業を身近に感じ、食の大切さや郷土を慈しむ心を育て、親子の絆を深めながら楽しく学べる11年続いた人気の「米沢元気の「米沢元

村」でしたが、農業委員会の制度改正に伴い、今年度から名称を「農と食の元気っ子講座」とし活動内容を一部リニューアルし、市内の小学生5、6年生を対象に9月1日、10月20日の2回、三沢地区にて秋ならではの農業体験と旬の食材での調理を行いました。

1回目の9月1日はあいにくの雨でしたが、参加した子供たちはやる気満々で築沢地内の畑に行き、アトラニックジャイアントというジャンボかぼちゃやハロウィンかぼちゃ、おもちゃかぼちゃなど、観賞用の珍しいかぼちゃを収穫し三沢コミュニティセンターまで運びました。調理実習ではかぼちゃを練りこんだパンを焼き、米沢牛のローストビーフや旬の野菜をはさんだサンドイッチと、かぼちゃのスープ、ぶどうや桃をのせたおいしいパフェを作りました。



2回目の10月20日は家族も参加し、青空のもと築沢の麦わらぼうしにて栗ひろいをした後、1回目に収穫したハロウィンかぼちゃでジャック・オ・ランタン作りを体験しました。調理実習は三沢コミュニティセンターに移動して、栗ごはん、鮭のホイル焼き、芋煮、紅玉のパイを作りました。ほかに漬物や煮物、果物など、実りの秋を存分に味わいお腹いっぱいになりました。今回の2回とも楽しく無事終わることができました。



参加者からは、「元気がなくなると聞いて残念に思っていました、また参加できて嬉しかったです」、「また来年も友達を誘って参加したいです」、「初めてかぼちゃがなっているところをみました」、「収穫より運ぶのが重くて農家さんの大変さがわかりました」、「苦手な野菜も自分で作ったら食べられました」など多くの感想が寄せられました。

来年も、子供たちに、より農業と食文化を身近に感じていただける企画を考えたいと思います。ご支援ご協力宜しくお願い致します。

【農業委員 鈴木 晃子】



雪若丸本格デビュー

つや姫の弟分として昨年本格デビューをした「山形112号」雪若丸を初めて栽培した農家の方々にお話を伺いました。

事前の栽培講習会では、出穂、成熟共はえぬき並で標準よりやや遅い事、丈が短く倒伏に強く栽培しやすく、直播適性にも優れており、穂いもちの圃場抵抗性が強く、耐冷性は「やや強」、高温耐性は「やや強」である事、食味については炊飯米の白さ・外観・光沢・味に優れ粘りと硬さのバランスがこれまでにない新食感である事の説明がありました。

実際に栽培した農家の声を聞いてみると、「苗の時から思ったより丈が短く、出穂まで心配だっ



た、「葉色が濃いのでカメムシの被害が心配だった」、「いもちの耐性は、はえぬき並の感じがした」、「収量は今年は全般的に低く、一様には言えない」。等の感想をお聞きました。

まだ本格的に栽培されて一年目であるので昨年は各農家手さぐりの状態でしたが、一年栽培すれば農家は必ずそれぞれの品種の特性をつかみ、今年度以降も高品質の雪若丸を生産・出荷すると確信をしたところです。

【農業委員 佐久間 英之】

地域かわら版

南原そば部会

南原そば部会は、現在会員37名、作業受託件数が100件、面積118ヘクタルの作業受託組織です。



昭和60年3月に南原蕎麦の普及を目的に自家栽培・自家消費を始めた会でしたが、近年は転作作物としてのそば作付拡大により作業受託組織として活動するところが主力となり、播種から刈取り、乾燥調製、製品作



り、販売まで一貫して受託し、水田及び畑地の遊休地軽減に尽力しております。

部会で生産している玄そばは、市内そば屋さん7店舗、主要取引先の長野の製粉所のほか、昨年から東京浅草や九州佐世保のそば屋さんなど県外の販売先が増え、食味の評判も上々で引き続き取引が期待できそうです。

また、今年より多収穫で倒伏しにくい新品種「BW5号」を試験的に栽培し、将来は販路拡大を図りたいと考えています。

これからも転作のそば栽培で農家の収入確保のお手伝いをしてまいりたいと思います。

【農業委員 山王堂 民栄】



米沢の花卉

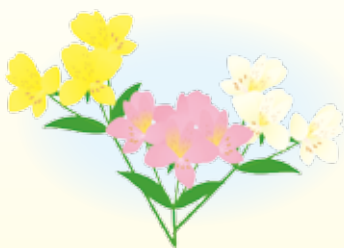
塩井地区でアルストロメリアを中心に花卉栽培を営んでいる(株)相田花卉を紹介します。お話を代表の相田哲郎さんに聞いてきました。

栽培の概要は、軽量鉄骨のハウス、53aの栽培面積でアルストロメリア12品種、白、ピンク、黄色など、約7色の種類を周年で栽培し、特に4月から6月上旬にかけて出荷のピークを迎えるとのこと。家族3人、従業員2人、パート1人の労働力で出荷調整と栽培管理をしているそうです。

アルストロメリアを栽培するうえで、一番注意しているところを質問したところ、哲郎さんは、ハウス内の温度管理が難しいとのこと。温度の違いで、収量、花の鮮度、色などいろんな所に影響が出てくるそうで、ハウス内の換気やボイラーの温度調節など、毎日気を使って管理しているそうです。

出荷先は、JAで共出荷をしており、県外の市場に出荷の他、地元の愛菜館にも出荷しているそうです。

【農業委員 高橋 秀治】



広報「農委よねざわ」101号

発行日 平成31年1月1日

発行 米沢市農業委員会
〒992-8501 米沢市金池5-2-25
☎0238-22-5111 (内線5905)

委員長 我彦 正福
委員 遠藤 伊一 樋渡 由美 上村 貞義
山王堂民栄 鈴木 晃子 佐久間英之
高橋 秀治 田代 昇一

印刷 株式会社羽陽印刷

編集後記

あけましておめでとうございます。今回発行が101号で新スタートを切りました。これからも広報を通して農業委員会の活動、役割、地域の取り組み、農政情報などを紹介し、農業の一助となれるよう広報委員一同頑張っていきたいと思います。今年もよろしくお願いします。

【広報委員長 我彦 正福】

